



新潟の水辺だより

Vol.54

●編集発行 新潟の水辺を考える会●発行日 2001年8月17日 Vol.54

特集 NPO法人化へむけて

NPO法人化にあたって個人・労働者・社会人としての在り方考える

—「ボカ」が許されるNPO活動を求めて—

「新潟の水辺を考える会」が、2001年7月14日（土）の総会で、「新潟水辺の会」と改称して、NPO法人に登録申請することが確認されました。その代表に光栄にも私が選ばれました。申請が受理され、法人化が確定するのは12月頃になると思います。「水辺の会」は、1987年10月の発足以来、「考える会」から「汗をかく会」、そして「責任をもとうとする会」へと成長してきましたが、この法人化によって名実ともに「責任をもつ会」に脱皮しなければなりません。今後、会員の皆さんには、それぞれ得意の分野で一層御活躍いただかねばなりません。どうかよろしくお願いいたします。

ところで、この法人化を契機に、NPOでの活動というものを、われわれの人生の中でどう位置付けたらよいかを少し考えて見たいと思います。それは、「家族サービスをほったらかしにして」とか、「仕事もせずに」、「NPO活動ばかりしている」という御叱責を時たま耳にするからです。

そもそも近代社会は、組織的に生産を行う産業社会を形成し、個人的生活の時間（余暇を含む）と労働する時間に二分し、それ以外の時間の使い方をあまり重視しないできたように思います。特に、キリスト教的なボランティア活動が盛んな欧米社会と比べ、日本では宗教的な拘束が弱く、宗教にまつわる社会的な活動も少ないように思います。確かに、普段のわれわれの生活の中で、「どこにお勤めですか？」、「どちらにお住まいですか？」という会話は成立していますが、「社会のためにどのような活動をされていますか？」という問いはそもそも発せられていないように思います。

本来、人間は社会的動物であり、社会に役立つことで「生きがい」を感じ、「誇り」を持った人生が送れ、死に際に満足感が得られるのではないかと思います。かつて、労働が「なりわい（生業）」として行使されていた時は、技術の未発達によって労働そのものが苦しいものであったかもしれませんが、己の働きが社会にどう関わっているか明確に認識され、多くの人々はあまり悩むことなく、人生に意義を感じ

ていたのではないかと思います。

しかし、近代産業社会における労働は、無論、創造的で楽しい時間もあるのですが、基本的にベルトコンベヤーの脇で機械的に働くことに象徴されるように、利潤のために効率が追求され、分業体制の中で肉体的にも精神的にも疲れはてる無味乾燥なものになってしまいました。したがって、その労働が社会にどう貢献しているのか分かりにくく、公害問題に見られるように、結果として反人間的・反社会的な場合も発生してきました。また、個人的生活においても、子孫を残すという形で社会に貢献することはあり得るのですが、今のような大量消費・廃棄の市場経済の中では、己の生存が環境破壊につながっているのも事実です。こうした近代社会の中では、多くの人々が「生きがい」や「誇り」を無くし、日々を悶々と送らざるを得ない状況にあるのです。

この世の中で、社会に役立って「生きがい」を感じ、美しい人生を送るためには、意識して個人的時間と労働の時間以外に、社会に役立つ時間を生み出して行く必要があるのではないかと思います。その一つの重要な形態がNPO活動でないかと思います。

ただ、その活動で大切なことは、競争・効率原理ではなく、人間としての誇りを軸に活動を楽しむことでないかと思います。効率・競争原理ですと、他人を出し抜くために物事を非公開にし、行動に「ボカ」が許されなくなります。しかし、NPO活動は、確かに責任をもたねばなりません、結果として社会に役立てばいいのであり、少々の「ボカ」は許されるべきでしょう。そこが営利活動と異なるところでないかと考えます。NPO活動にとって大切なことは、「ボカ」があってもそれを隠さず、公開しながら、皆でそれを補い合い、楽しい活動に発展させることでないかと思います。20世紀は「猛烈社員」が一つの人間像でしたが、21世紀はボカを許容する「ゆっくりNPO人間」が一つの人間像でないでしょうか！

代表 大熊 孝

特定非営利活動法人「新潟水辺の会」設立主旨案

1987年10月1日「柳川堀割物語」の上映&シンポから13年、水辺で楽しみながら考える会から始まった当会が、少し達成感を求めて汗をかく会に脱皮したのが95～96年。ラムサール条約登録湿地佐潟の保全再生と全国屈指のドブ川通船川の再生まちづくりがきっかけでした。県内外の大小の河川、堀割、運河の見聞。ライン川に始まりチャオプラヤ川、り江、そしてセヌ川、テムズ川他の運河の取材。4回の全国規模の大会開催。全国イベントへの参加や後援。各団体、機関の助成研究や助成活動の受託と情報発信、出版。各委員会や協議会への参加・提言、各地の各団体各機関での講演やワークショップなどの指導支援。水辺の活動をするこども達への表彰支援。全国各地の川守人やNPO団体はもとより、公民館を含む行政機関、企業や農業団体、組合、財団などとのパートナーシップでの多彩な取り組みをしてきました。それを可能にしたのは、多くの会員に共通していた水辺に対する危機意識と水辺の再生への強い想いがあったからです。私たちは、多くの評価や多少の誤解を受けながらも一貫して水辺環境の改善を通したまちづくりとして取り組んできました。

この間、疲弊した川の再生に、環境復元をめざす近自然型の川づくりや地域住民の関わりでの再構築などを柱とする新河川法の追い風が吹き、官民パートナーシップでの川づくりが始まりました。

このような状況で21世紀からの私たち水辺の会の課題は明解です。それは、関

りが希薄となった水辺を多様な関わりが生れる生き生きとした美しい水辺にすること、先導的で最適な取組みを多彩に展開してゆくことです。その過程の中から“再生する水辺と生き生きしたまち”が見えてくるはずで。生き生きとした美しい水辺にするのに百年はかかるでしょう。生き生きとした美しい水辺の記憶を辿り、その水辺への新しい想いを重ね、水辺の使い方、作法、ルール、仕組みを再生し育ててゆくには従来の任意なボランティアだけでは不可能に思えます。生き生きとした美しい水辺づくりの展望は、目標に向かった小さな見試しの繰り返しからしか見えてこないのではと思います。

そのためには多彩な専門集団を巻き込み、水辺のさまざまな問題課題に取り組む新しい公共の市民事業が不可欠です。それも水辺を再生し生かすつづける“川業”として、です。それには多彩な人財・組織団体をうまく運営していく担い手集団とその専従スタッフの体制づくりが不可欠となります。すでに、これらは資金的、人財的課題を抱えつつ実践すべき段階に入っています。水辺の会の進化には、若いフットワークのいい人、豊富な知識をこども達に解説指導できる熟年者、新しい「川生かし」のサロン運営のできる女性など力のある人財をスタッフとして抱える団体への脱皮=NPO法人化が不可欠です。どうしてもしなければならぬ「川生かし、まち生かしの仕事」にはそれを担う団体の登場が不可欠です。その扉を開きましょう！

平成13年7月14日

編集部より：今回の新潟の水辺たよりはNPO法人化へ向けた特集です。2001年7月14日に開催された総会の内容を中心に紹介します。

レポート NPO法人設立総会 その1

7月14日新潟市大形地区公民館で行われたNPO設立総会には会員48名が出席しました。総会の時に議論された定款（案）のポイントについていくつか紹介します。（これから実際の登記～認可までの間に細かい点は変わるかもしれません）



挨拶する大熊代表（左）と議長の進直一郎さん（右）
（高橋正良編集鳥撮影）

名称について

法人の名称は「特定非営利活動法人新潟水辺の会」となります。名称は法的な登記が完了すると変わります。

目的について

この法人は、会員相互の協力や広範な人々との協働によって、水辺に関わる自然、歴史、文化、生活、風俗、福祉、教育、産業、スポーツ、レクリエーション、安全並びに科学技術を探り、これからの水辺の望ましい姿を考え、楽しく生き生きとした美しい水辺づくり、水辺育てを行い、地域にとっての水辺の環境改善やまちづくりに寄与することを目的とします。

事業について

以下に掲げる種類の特定非営利活動を行います。

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 社会教育の推進を図る活動

- (3) まちづくりの推進を図る活動
- (4) 文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動
- (5) 環境の保全を図る活動
- (6) 災害救援活動
- (7) 地域安全活動
- (8) 国際協力の活動
- (9) 子どもの健全育成を図る活動
- (10) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

また、これらに係る具体的な活動として、以下の事業を行います。

1. 水辺の環境改善事業
2. 水辺のまちづくり事業
3. 水辺の魅力再生研究事業
4. 水辺の活動宣伝事業
5. 上記1から4にかかる受託事業
6. 水辺産業起し事業
7. その他当法人の目的達成に必要な事業

会員・会費について

この法人の目的に賛同して入会した個人および団体を会員とします。

- ・入会金および年会費の金額は総会で決める予定としています。
- ・現在の予定では入会金は設けていません。

設立初年度の予算は現在の会費をそのまま持ち越すことで運営します。

会費は以下の様に予定しています。

- ・正会員は一口1,000円、2口以上。
- ・賛助会員一口1,000円（学生、子供を対象）
- ・法人会員一口5,000円、2口以上

会計年度は7月1日から翌年6月30日としています。現在の会員については、平成14年の1月に設立当初年度分の会費を納入していただき、平成14年7月に平成14年度分の会費を納入していただくことを予定しています。（以下9ページに続く）

法人設立初年度の目玉事業はどうか。 「川を楽しく使う川舟、板合わせを走らせよう！」

NPO法人化をきっかけに水辺の会270名の多彩なメンバーが、いままでの楽しい活動に加えて、もっと充実した楽しい活動を生み出していくだろうという予感がしてワクワクしています。

私たちの目の黒いうちに、(という後30年ぐらいかな)私たちの時代に汚してしまった水辺を昔のように戻して、次代のこどもたちに渡したいものです。問題はそんなことできるのか?という水辺市民にある疑心暗鬼の払拭と水質改善への具体化の方法です。それにはみんなが「川が汚いのは嫌だ。耐えられない。」と強い想いを抱く状況をつくりだすことです。そのとき最初に思いつくのが川舟です。川を使う人が多くなればなるほど、川面にいる時間が長ければ長いほどいろんな活動、使い方が生まれます。そのとき水辺利用の基盤に「美しいきれいな川」への強い想いが生まれるはず。果たして通船川では川辺に住む60才以上の人ならたいい川舟の「板合わせ」を漕げるといいます。稲などの農産物を運んだ農業利用だけでなく人の運搬、マイカー的な交通利用をしていたといいます。この川舟板合わせの導入を2001年事業の目玉として提案します。というより、もう注文してしまいました。学校の子供たちに熟年者が教えているようすが想像できます。このように私たち水辺の会は、10年20年の具体的な目標を定めて水辺の環境改善を柔軟でダイナミックに進めたいものです。それを水辺市民を千人、2千人とたくさん創りだしながら実現させましょう。

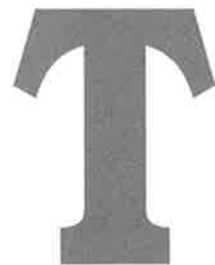
多彩な水辺事業に向けて

この他、当会の目的を実現するために次の事業を行います。1) 水辺の緑化や管理、ハス採り体験などの水辺の環境改善事業、2) 花筏、地域学協力、堀割調査支援、こどもたちの水辺活動育成支援、水辺の安全

と防災などの水辺のまちづくり事業、3) 水辺ウォッチング&ヒアリング、計画・デザイン検討の水辺シンポジウムや乗船体験などの水辺の魅力再生研究事業、4) 会報、出版、瓦版、ポスター、展示パネル、ホームページ、水辺のプレゼンテーションなどの水辺の活動宣伝事業、5) 舟運事業、水辺ガイド事業などの水辺産業起し事業などです。この他目的達成に必要な事業として水環境全国交流会、水郷水都全国会議、川の日WS、長野の水辺団体との交流会などの水辺の交流と啓発活動、国内外の水辺研修ツアー、学生のインターンシップなどの水辺人材の育成、さらに川掃除、濁り掃除の協働や水辺施設の企画運営などの支援をするパートナーシップの官民協働、水辺の情報交流などです。

全国では、リバーマイスタースクールを開いたり先進的に閘門の操作を受託するという北上川のNPO法人きたかみ水の里、子供たちの夏休みの水辺学習の受託や河川整備計画を策定しているNPO法人多摩川センター、市民参加の水辺キャンペーンイベントを多彩に展開している鶴見川流域ネットワーク、カヌーフェスティバルやこども川会議をひらくよこはまかわをを考える会、石狩川に200万本の水辺林植樹を進めるNPO法人水環境北海道、リヤカーで源流の碑を運びつなぎ川博士を生み出す旭川流域ネットワーク、流域博物館をめざし川学芸員登録や筑後川カードまでつくるNPO法人筑後川流域連携倶楽部などなどダイナミックな事業展開を図っています。

古代の森ブナの森から一滴が搾り出される雪国新潟で海より低い低平地の多い新潟の立地を見定め、人々の想いを引き出し少しでも「魅力的で美しい川」に向かって漕ぎだす事業・川業をしていきましょう!



「新潟の水辺スケッチについて」

1998年頃より2000年にかけて、「通船川三十景」を描いて、いろんなワークショップやネスパスやイベントなどで発表させてもらってきました。それまでは「水辺を考える会」の5年選手なのに仕事にかまけて活動にあまり参加できなくて悪いなと思っておりました。折りしも、通船川再生の活動が盛んになっておりましたので、それならば、自分は絵を描く趣味を生かして、通船川の風景画を何枚か描いて会員の方々に見てもらおうと考え、暇を見つけては、季節ごとにさまざまな場所をせっせと描きに行きました。



通船川 通船川橋より 第一貯木場を臨む
(2000年7月)

春夏秋冬いろんな通船川の表情や場面を描いていたつもりです。通船川を描くまでも、以前から川や海、湖、池などを描いてきました。上手、下手はともかく、自分で満足のいく仕事ができたと感じています。去年の春までに描いた三十景で一応ケリがついたものと安堵していましたが、当会員の星島さんから「市内を流れている小阿賀野川も通船川と同じで信濃川と阿賀野川につながっていて閘門もあります。描いてみませんか」とありがたいアドバイスをいただきました。かつて小阿賀野川のウォッチングに参加したこともあったので、今度は工場地帯に流れる通船川と違い自然がたくさんある小阿賀野川にトライしようと思

が湧いてきました。幸か不幸か、本業の方はさっぱりで、時間はたくさんあるので今度は小阿賀野川を描きに通ったものです。そうこうしているうちに、新潟市内に流れ込んでいる川や潟も対象になってきたのです。新栗ノ木川、新井郷川、新川、中ノ口川、西川、鳥屋野潟、佐潟、福島潟、新潟海岸、新潟西港などと、だんだん範囲が広がっていきました。写真家の様に撮影したらすぐ移動できるのとは違って、1枚の絵を描くのに、炎天下でも厳冬期でもその場を3時間くらい粘らなくてはなりません。時間と体力と行動力（といっても私の場合、今のところせいぜい新潟市周辺ですが）の勝負でもあるのです。もちろん最初に絵になる場所の構図の取り方も工夫が必要です。特に分水町から新潟市の平島まで流れている西川は距離も長くて大変でした。

最初描きに行った川で印象に残った川は、新潟市内を流れている新津川です。人工的に整備されており流れもあまり無い狭い川ですが、絵になる場面が多いのでこれからは通いそうです。

水辺を色々描いてきましたが不思議と現場で会員の方から声をかけられたことがありません。描いている最中でもかまいませんから、声をかけてください。

現在行われているインパクのパビリオン「川とくらし」にある、新潟からの情報発信にこれまでに描いてきた200枚近くを「水辺散歩・長谷川久彦氏のスケッチ館」ということで恥ずかしげもなく発表しておりますので是非お会いしてください。

今年の県展に洋画部門の水彩画で（工場の絵であった）入選しましたので、なおさら後押しされたようになり、熱にうなされたように描きまくっている次第です。

インパクが終わったあとでも、もちろんいろんな水辺を描いていくつもりです。新潟市に流れ注いでいる大河、信濃川と阿賀野川にもそろそろ心動かされている比の頃です。

長谷川 久彦

「新潟の水辺散歩 長谷川久彦のスケッチ館」インターネット博覧会「川とくらし」のパビリオンにて好評公開中 <http://www.southernwind.co.jp/inpaku/>



通船川のコーナー

通船川の再生にむけて進む地域の対話

私達の住む通船川流域、薬師橋から松崎大橋までの区間の再生化について、いち早く取り上げて頂き、地域住民一同感激致しておる次第です。予ねてより私達町内会での取り組みについて基本的な内容は総意となりました。今後の詳細な問題の提起、私達の成すべき事項を協議するため、地域環境再生委員会を発足して、毎月第三金曜日に協議を重ねております。下記に最近の住民の意向を対話形式で紹介させていただきます。

通船川の再生について住民との会話

佐藤泰雄会長説明

私達の念願であった通船川の再生について、いよいよ本格化される様相になりました。松崎地区、区画整理事業と相まって、薬師橋から松崎大橋の区間が対象になります。完成は平成17年度の予定です。予てより私達が協議、県にお願い提案いたしておりました事項が基本として、その他色々ご意見ご提案を頂ければ幸いです。

- 1) 本当に公園化されて17年に完成するのか。
→14年度に具体化するという。
- 2) 何でも希望、提案しても実現出来るのか。
→全部が不可能と思うが選択議有る。
- 3) 照明をつけて夜も遊歩道として活用したい。
→可能性がある。
- 4) 盆踊り、水辺の音楽会など色々なイベントを企画してはどうか。
→皆さんの協力を頂き、計画したいと思う。
- 5) ポート、カヌーで遊びたい。
→出来ると思う。
- 6) 安全な魚釣り場が確保出来るのか。
→確保できる。
- 7) 菜園、花壇を造りたいが可能か。
→出来るようにお願いしてみる。
- 8) 町内で生ごみリサイクル処理化する予定であるが、その堆肥を菜園、花壇に活用できるのか。
→出来ます。(その堆肥を使った作物は)大変よく成長し、甘味が良いです。

9) 菜園で出来た野菜などの自由市場を作れないか。

→皆さんと協議して作りましょう。

10) 水上バスの運行をできるだけ早くして頂きたい。船着き場を作る計画があるのか。

→私もジャスコの近辺にどうかと思っており、お願いしてみます。

11) 水上レストランを運行したいとの話を聞いたが、可能かどうか。

→通船川の将来の発展の経緯により可能であると思う。

12) 水飲み場と植栽の散水設備をお願いしたい。

→出来るようにお願いする。

13) 遊歩道はクッション性のある舗装に。

→その様にお願いします。

14) トイレの設置をお願いしたい。

→その様にお願いします。

15) 東屋を三箇所ほど設置してはどうか。

→出来るようにお願いする。

16) 個性のある木橋で通学路、遊歩橋を中間に、三箇所ほど設置してはどうか。

→是非にとお願いする。

まとめ

以上のようにまだまだ思いは尽きませんが、私達のこの地域は現在までに環境に恵まれず、今回のこの機会を最良と捉え、自治会長初め、地域環境再生委員会、地域住民、老若男女もども、「自分達で出来る事は、自分達でしよう」を合言葉に、清掃、植栽の手入れ、草取りなどに取り組んでいます。昨今の人達は家に籠り勝ちです、この機会に屋外に出るチャンスを与え、それには緑と日陰、ベンチが欠かせません。緑は害虫のつかない落葉樹など、春は新緑、秋は紅葉と色とりどりになるように考えたいものです。私達も協力します。頑張ります。

何とぞ一日も早く完成を期待しております。

勝手な事ばかりお願い致しまして恐縮ですが宜しくお取り計らいお願い申し上げます。

寄稿 大形本町第一自治会 加藤 長司氏



第3回子ども環境会議（仮称）

通船川ネットワーク・大形ちいき楽会（以上、世話人会）・新潟市東地区公民館・共催、第3回 子ども環境会議（仮称）が、7月11日に沼垂小学校のご協力で体育館を会場にして試行的な発表大会を開催した。4～5年生90人は、5月から総合学習の一環で学校ビオトープ（生物生育空間）の「生き物ランド」観察記録と生態調査発表を30グループに分散して観察の成果などを広い会場いっぱいを使い元気良く紹介した。

このような保護者参観の形式で催した発表会は始めてで、保護者と一緒に案内を出した通船川周辺の小学校の先生・自治会関係者・市民団体など校区内外の多数の人が参観した。子どもが主体になって展示物から発表までのグループ作業を感心しながら注目をしていた。マスコミも取材に掛け回りながら合間に子供達に質問を投げかけていた。

生態観察・池の植物調査・など分野別に5～6人のグループに分かれて行われた発表は真剣なものだった。保護者と一緒に見られない人々に囲まれた子供達は「いつもと違う真剣さが伝わる」と指導の先生は話しておられた。

また、時に指導する先生は、各グループを回りながら、参加者の質問に対し、調べた本のまま答えるのではなく実際に観察したことを答えるのが重要と厳しく指導されていたのが印象的で、その積み重ねが児童をここまで育てた実績としてご苦労が偲ばれた。

参観後、校長室脇の会議室で指導された先生を囲み他校の先生方・保護者・世話人会と意見交換を行った。

通船川ネットワーク 星島 卓美

川とかわす明日の約束Part-4 川の恵みは誰のもの？

新潟の川を紹介するイベント、「川とかわす明日の約束Part-4、川の恵みは誰のもの？」が東京都渋谷区表参道にある新潟館ネスパスにておこなわれます。日程は9月14日（金）、から16日（日）の3日間で、新潟の水辺を考える会が企画・運営をおこないます。今年のイベントでは、信濃川の中流部の水力発電による減水区間の様子を紹介します。

信濃川は水力発電によって長さ367kmのうち70kmが水の少ない区間となり、環境へ影響を与えています。そこで、国土交通省と企業は、今年の7月20日から河川環境を改善の取り組みの一環として放流する水の漁量を増やしました。

信濃川の恵みは私たち流域の人が生活の水などを得るだけではなく、首都圏の人も電力という形で恩恵を受けています。しかし首都圏の人々の多くは、この電力がどこから来ているのか、その川の様子はどうなっているのか知っている人は少ないようです。

そこで、今回のイベントは、私たちが得ている川の恵みとは何か？その恵みを受けているのはもはや流域だけではないことを知っていただくことをテーマにしたいと考えています。

出展内容は現在検討をすすめているところですが、川の豊かさが縄文人を育んだ象徴としての火焰式土器（レプリカ）の展示、星島氏が作るおいしい川の恵みサケ汁、関東のNPOと新潟のNPOとのミニフォーラムなどです。

沿川住民、企業、遠く離れたところでその恩恵を受ける人々みんな「私たちが受けている川の恵み」についてもう一度考えることで、21世紀なりの自然の恩恵を受け、自然を尊ぶ人と自然の循環のある良好な関係が築きあげられると思っています。難しいテーマですが、楽しい有意義なイベントになるように盛り上げていきましょう。

「アジア湿地シンポジウム 2001」にむけて

この度、マレーシアで開催される「アジア湿地シンポジウム」に参加、発表させていただく機会を大変光栄に思い、皆様には大変感謝申し上げます。

各国で湿地に係わる人たちが集まる、「アジア湿地シンポジウム」が2001年8月27日～30日の間、マレーシア・ペナン市（ペナン島）で開催されます。



2000年9月の佐潟ハス採り大会より
(撮影 相楽 治)

シンポジウム開催の目的は、1992年大津市及び釧路市で開催された「アジア湿地シンポジウム」での湿地保全推進を求める勧告から約10年が経ち、大きく変化したアジアの湿地現状を点検・評価し情報や経験を広く交換し、「認識の共有」と「解決への協働」を目標にして開催されます。

今回のシンポジウムでは23ヶ国の政府関係者、学者、学生、NGOから企業まで、日本からの30名を含む約420名の様々な立場の人たちが参加するそうです。このシンポジウムでの成果は「ペナン宣言」と「シンポジウム報告書」として2002年11月スペインで開催される「ラムサール条約第8回締約国会議」に向けたアジアからの貢献になります。

新潟の水辺を考える会はこのシンポジウムに参加し、湿地と人々のかかわりをテーマに、ラムサール登録湿地の「佐潟(SAKATA)」を紹介することになりました。

きっかけは、ラムサールセンター事務局長の中村玲子さんから参加してみないかという話を頂いたことに始まります。「これから、佐潟と同じ運命を迎えるであろうアジアの湿地とその関係者のために、佐潟での人々のかかわりと活動を是非、みなさんに紹介をして欲しい。」というものでした。中村さんの話では、「佐潟」における人々の関わりとその活動は日本国内に11カ所ある登録湿地の中でもトップクラスに入るそうです。

本シンポジウムへの参加・発表の条件として、今年5月末を締め切りに発表要旨の提出を求められました。提出した発表要旨はマレーシア事務局で審査され、6月下旬に審査をパスし、正式に受理されたとの連絡が入りました。

シンポジウム当日は、「佐潟の自然」と「佐潟における人々のかかわり」をテーマにして発表すると共に、今年11月に予定されている「ラムサールシンポジウム新潟大会」へ向けた取材も兼ね、国外のかかわり方や事例を学びとる機会にしたいと思います。

発表には、佐潟水鳥・湿地センター 佐藤安男氏からも参加していただき二人で発表する予定にしています。

世話人 風間 善浩

佐潟ひとくちメモ

名称： Sakata(サカタ)
 位置： 北緯37° 49' 東経138° 52' 30"
 新潟市赤塚地内
 標高： 約5m
 面積： ラムサール条約登録湿地面積
 (佐潟公園区域) 76ha、水面積 約43.6ha、
 鳥獣保護区 251ha
 水深： 平均1m以下
 集水面積：約340ha
 水質： 淡水、窒素やリンなどの栄養
 塩類の多い富栄養湖に分類



森と川

森に降った雨は、梢の葉を濡らし、林冠に普く降りそそぐ。

樹林は緑のダムとなって、森全体に雨水を備蓄する。森の土壤に浸透した雨水は、土壤が含有する様々な物質を溶融し、溶存させながら、地中の低所へ流れて地下水になる。その間、樹木の毛根から吸い上げられた水は、溶存していたミネラルを栄養分として、あたかもほ乳動物の血液のように、梢の末端についている葉っぱの葉脈を伝わって、葉緑素のもとに運ばれる。そこはあたかも何かの製産工場のように、太陽光線に反応させて同化作用を起こさせ、葉の細胞を分裂増殖させている。

その時、副産物として生産された酸素と気化水すなわち水蒸気は、排気ガスとして大気中に放出される。この排気ガスこそ、生物が生きてゆくために必要なエネルギー源として、燃焼用酸素を供給してくれる大切な役目を果たしてくれる。

ある学者は、人口一万人の人類が生きてゆくために必要な酸素を、何平方mの葉の面積が必要なのかを計算して、その結果、一万人の都市には何平方mの森林が隣接し、もしくは区域内に包含される必要のあることを証言しようとしている。

もう一つの排気ガスである水蒸気は、葉の表面から蒸発放出することによって、葉脈流を起こす毛細血管現象を起す原動力となっている。動物にとっての心臓の働きに相当する。つまり人間の製造した自動車がまき散らす排気ガスのように迷惑なものではなく、造物の神が作った植物の出す排気ガスは万物に恵みを与えてくれる。

(紙面の都合上以下は水辺の会ホームページ等で紹介します)

大崎 映晋

レポート NPO法人設立総会 その2

(4ページからの続き)

役員および職員について

役員については世話人を30人以上50人以上、監事は2人置くことにしています。7月末までに世話人については47名、監事は2名の方にお引き受け頂く旨内諾を頂いています。



総会の様子 (高橋正良編集鳥撮影)

世話人を持って関連法上の理事としています。

代表世話人を1名、副代表世話人を数名を世話人の互選により決めます。7月14日の総会では大熊孝会長を代表世話人に選任しました。

世話人会は世話人で構成し、総会で議論する事項、総会の議論を受けその内容を実施する事項、事務局の組織や運営に関する事項について議決を行います。

設立主旨、定款案など概ねの内容はほぼ合意が得られましたが、これから実際の申請や登記に関する手続きなど実務レベルでの議論や作業が必要になっていきます。9月1日に世話人会を開きこれらの議論を行う予定です。

また、このほかにも現在のマークはどうなるのかという質議もありました。

今年2月から毎月第2・第4月曜日にNPO法人化に向けた勉強会や会議が行われ、総会に向けての準備が進められてきました。

私は一回参加したきりでしたが、進さん、森本さん、相楽さんをはじめ、菅野さんや安田さん、横山さん、大崎さん、戸枝さんなど精力的に準備に携わってきた皆さんありがとうございました。

世話人 杉山 泰彦

Information

イベント情報

- ボラフェス2001 エイ！エイ！FOR～
と き：9月8日(土) 10:00～17:00
ところ：新潟ユニゾンプラザ 参加費：無料
主催者：ボラフェス2001実行委員会
電話：025-280-5134 新潟県生活企画課
- 通船川クリーンアップ作戦
9月9日(日) 9:30～薬師橋集合
問い合わせ 新潟市東地区公民館 電話025-241-4119
- つくり市民会議
と き：9月8日(土) 13:30～
ところ：新潟県流域下水道事務所
主催者：通船川・栗ノ木川下流再生市民会議
電話：025-231-8328 新潟土木事務所計画調整課内
- 「川」とかわす明日の約束Part4
と き：9月14日(金)～16日(日) 10:00～17:00
ところ：東京表参道 新潟館ネスパス 参加費：無料
内容：信濃川の紹介、ミニフォーラム
主催者：新潟の水辺を考える会 (電話：025-263-2727森本)
- 通船川草刈り隊
と き：9月29日(土) 9:30～ 薬師橋集合
参加費：1000円昼食付き 問い合わせ 025-276-2254 横山
- 佐潟ハス採り大会
と き：10月6日(土) 13:00～15:30
ところ：佐潟公園芝生広場 参加費：無料
主催者：新潟の水辺を考える会
電話：025-263-2727 相楽、森本
- 第17回水郷水都全国会議in紀の国
と き：10月27日(土)～28日(日)
ところ：高野山会館大ホール 参加費：有料
主催者：紀伊丹生川ダム建設を考える会
電話：0736-38-2601 石神
- 2001L休暇シンポジウムin新潟
と き：11月1日(木) 13:00～16:00
ところ：新潟ユニゾンプラザ 参加費：無料
内容：長期休暇制度の普及と定着のシンポジウム
主催者：新潟労働局 (電話：025-234-5922 上田)
- 第2回ラムサールシンポジウム新潟
と き：11月22日(木)～24(土)
ところ：新潟市民プラザ、万代市民会館ほか
主催者：第2回ラムサールシンポジウム新潟実行委員会
電話：025-228-1000新潟市環境対策課 寺田、025-234-7325 高橋 正良
- 水辺シンポジウム、総会・忘年会
と き：12月15日(土) 13:00～
ところ：新潟市東地区公民館 参加費：未定
主催者：新潟の水辺を考える会
電話：025-263-2727 相楽、森本

季刊ばらくて

特集 新潟の水辺を考える会のご案内



当会の会員でもある小船井 秀一さんが代表編集人をつとめる新潟発の雑誌「ばらくて」の最新号が出来上がりました。

今回は以前から小船井さんがいつかは特集を組みたいという願いが実現して、「新潟の水辺を考える会」が特集にとりあげられています。映画「阿賀に生きる」

のステル写真を担当した村井 勇さんの写真も素敵です。ぜひご一読ください。

[特集の内容]

- ・編集人代表がテキトーに考察・新潟の水辺を考える会
- ・代表 大熊 孝・新潟大学教授インタビュー
- ・水辺の会の水辺な人々

「季刊ばらくて」は水辺の会事務局はもちろんのこと、新潟市の文信堂書店新潟駅セゾン店、新潟絵屋、新潟・市民映画館シネ・ウインドでお求めになれます。

また、直接郵送することもできます。その場合は、住所、氏名をご連絡の上、下記の郵便講座に代金をお振り込みください。(送料はサービス)

特別価格 600円

郵便口座：00550-4-37823 ばらくて編集人会

E-mail abunai@cocoa.ocn.ne.jp

発行／ばらくて編集人会

〒950-0891新潟市上木戸5丁目17-5 小船井秀一方

電話／fax 025-278-9385

編集後記

■ 編集後記

折り合いをつけながら誇りを持って豊かに楽しく生きていくために、いよいよ水辺の会が法人化します。NPO活動としての水辺の関わりを考えると重要なことがあります。

私が自己紹介する場合、会社に所属する自分と、水辺の会の編集鳥としての自分をはっきり区分し、「稼ぎと仕事」を使い分けるようにしています。

他人とつながろうとする場合まず大事なのは、挨拶や自己紹介をきちんとすることです。「水辺だより」には会員同士の情報交換の役割があり、次いで私たちの会の自己紹介という役割を持っているのではないのでしょうか。今後はますます広報誌が重要視される時代となるでしょう。

またインパク特定パビリオン参加を通して全国、全世界の方々にお手伝いいただき、広がる人の輪を実感します。NPO活動にとって会報誌とともにインターネットの果たす役割はますます大きくなるでしょう。

編集鳥 高橋 正良

新潟の水辺だよりVol.54 発行 新潟の水辺を考える会

●事務局：〒950-2111 新潟市大学南1丁目7821-5
Phone 025-263-2727 Fax 025-263-1134
(電話番号が変わりました)

e-mail:sagara@g-sigma.co.jp

●編集局：〒951-8165 新潟市関屋金鉢山町76番地
マンションロビン103

Phone 025-234-7325 Fax 025-234-7327

e-mail:mtakahashi@southernwind.co.jp

●ホームページ <http://www.southernwind.co.jp/inpaku/>
インターネット博覧会「川とくらし」のパビリオン出展中